

企画情報部報（平成二十二年度）

異 動（平成二十年四月一日付を含む）

平成二十三年三月三十一日付で副所長中野照男は定年退職した。

平成二十三年四月一日付で企画情報部研究員江村知子は主任研究員に昇任した。

平成二十三年四月一日付で文化遺産国際協力センター主任研究員二神葉子は企画情報部情報システム研究室長に配置換えとなった。

平成二十三年四月一日付で東京国立博物館主任研究員小林達朗は企画情報部主任研究員に配置換えとなった。

平成二十三年四月一日付で企画情報部情報システム研究室長勝木言一郎は文化遺産国際協力センター国際情報研究室長に配置換えとなった。

平成二十三年四月一日付で企画情報部研究員土屋貴裕は東京国立博物館研究員に配置換えとなった。

オープンレクチャー

第四十四回オープンレクチャー「人とモノの力学」を研究所セミナー室において左記のとおり開催した。

十月十五日（金）午後一時半～四時半

中世における真宗祖師先徳彫像の制作をめぐる

津田徹英

草花の美―都久夫須麻神社社殿の空間―

岡山大学 須賀みほ

十月十六日（土）午後一時半～四時半

御歌所の歌人と書

成田山書道美術館 高橋利郎

秋元酒汀と明治の日本画

塩谷 純

黒田清輝共催展

昭和五十二年以来、毎年開催してきた黒田清輝共催展（近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展）を、平成二十二年七月十七日（土）から八月二十九日（日）まで、岩手県立美術館で開催した。

特集陳列

黒田記念館において、金子光雄氏より寄贈された黒田清輝関係の写真のうち約七十点を選び、国立情報学研究所の協力を得て、平成二十二年十一月三日より、「写真で見る黒田清輝の日常」と題した大型タッチパネルの公開を開始した。

研究会

四月二十八日

「後期印象派・考」について

田中 淳

五月十九日

「黒田清輝と西洋文学」補遺―ド・ラマルティヌ

六月二十三日

「湖」と《湖畔》をめぐる

山梨絵美子

七月二十八日

神護寺薬師如来立像にかかわる諸問題

皿井 舞

七月二十八日

鈴木其一の草花図について―ポर्टランド美術館

九月二十九日

所蔵・鈴木其一笔四季草花図小襖を中心に―

江村知子

十一月二十四日

千住と江戸琳派

真田尊光

十二月十七日

「是害房絵」成立の周辺

玉虫敏子

十二月十七日

岩手・光林寺所蔵 木造聖徳太子立像をめぐる

土屋貴裕

十二月十七日

作品紹介 京都・神光院地藏菩薩立像

津田徹英

十二月十七日

平安初期神仏習合彫刻史試論

皿井 舞

十二月十七日

北宋風作善の受容と印仏・摺仏の像内納入

皿井 舞

一月二十九日

近世風俗画共同研究調査報告会

佐々木守俊

一月二十九日

町田市立国際版画美術館

一月二十九日

「歌舞伎図巻」「本多平八郎姿絵屏風」を中心に

一月二十九日

本多平八郎姿絵屏風の表現について

吉川美穂

一月二十九日

歌舞伎図巻の描写について

江村知子

一月二十九日

質疑応答

司会 徳川美術館 四辻秀紀

二月二十七日（日）、研究所セミナー室にて、『美術研究』四〇〇号・『美術史論』

日韓共同シンポジウム

二月二十七日（日）、研究所セミナー室にて、『美術研究』四〇〇号・『美術史論』

二月二十七日（日）、研究所セミナー室にて、『美術研究』四〇〇号・『美術史論』

壇」三〇号記念 日韓共同シンポジウム「人とモノの力学―美術史における「評価」」を、三月十二日（土）には韓国・梨花女子大学校博物館視聴覚室にて、『美術史論壇』三〇号・『美術研究』四〇〇号記念 韓国美術研究所・東京文化財研究所共同シンポジウム「視線の「力学」―美術史における「評価」」を、左記の通り開催した。

（基調講演・東京） 国史形美術史の栄辱―朝鮮後期絵画の解釈と評価の問題

韓国美術研究所・梨花女子大学校 洪 善 杓

（基調講演・ソウル） 創作と評価―萬鉄五郎《風船を持つ女》を中心に―

田中 淳

（発表1） 山水長巻考―雪舟の再評価にむけて―

綿田 稔

（発表2） 愛情の誤謬―鄭敷への評価と叙述―

ソウル大学校 張 辰 城

（発表3） 江戸時代初期風俗画の表現世界

江村 知子

（発表4） 石濤、近代の個性という評価の視線

韓国美術研究所 文 貞 姫

ディスカッション

司会（東京）

田中 淳

成城大学 相澤 正彦

司会（ソウル）

東国大学校 鄭 于 澤

刊 行 物

『日本美術年鑑 平成二十二年度版』

平成二十三年三月

『日本絵画史年記資料集成 十五世紀』

平成二十三年三月

『研究資料 脱活乾漆像の技法』

平成二十三年三月

『平等院鳳凰堂 仏後壁調査資料目録―蛍光画像編』

平成二十三年三月